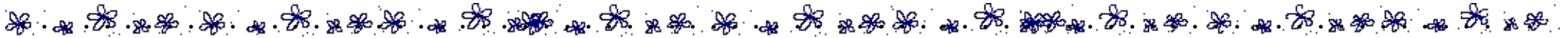


第2号

スキンケア・NST新聞

2010年10月発行

NSTメンバー紹介：*石川医師 諺間管理栄養士 新田管理栄養士 *光原管理栄養士 *溝上Ns *寺内Ns *深田Ns *三角Ns *森本Ns
廣瀬ST *稲井薬剤師・・・検査技師の方募集中 *印の方は褥瘡委員と兼任です



当院の褥瘡・NST患者状況

2010.9

褥瘡回診：4回

延べ患者数：60名

【2F：21名、3F：22名、4F：17名】

NST回診：4回

・延べ患者数：54名

【2F：10名、3F：21名、4F：23名】

ナースの視点でのリストアップが少ないので、NSTの介入の必要な方がもれているのではと心配しています。依頼待ってます！

学習会情報

11/15～26 NST専門療法士研修会（10/19現在 申込人数 9名）
公開で行いますのでカリキュラムを見て興味のある方は、森本まで

11/10（水）18時 食事のポジショニングについて

12/ 8（水）18時 血液データからみた栄養管理

12月に「スキンケア」の学習会を企画します

‘看護のつぶやき’ 溝上ナース編



今年度から新メンバーになった2階病棟 溝上Nsの投稿です。

73歳 男性 施設入所中で自宅に外泊中に転倒し大腿骨転子部骨折で当院入院されました。

オペ後にADLはアップしているにもかかわらず、臥床している事が多く踵部と仙骨部に褥瘡発生。

スキンラウンドにて対応し、NSTも介入したことで栄養状態は改善傾向となりました。その後、2階病棟へ転科し褥瘡も軽快に向かっていたのですが、なかなか完治に至らず、施設に戻る事ができない状況となっていました。そんなとき、看護師から「アルジネードを出してみてもはどうだろうか」という提案があり主治医に上申。2本/日で開始したところ、なんと治癒に向かい始めました。

*アルジネードは、アルギニンを含む栄養補助食品です。褥瘡患者や高齢者の栄養状態改善が期待できるとされています。

意欲も見られるようになり、臥床がちな生活から離床にむけてリハビリ中です。褥瘡はまだ治療中ですが、施設に戻る目途も見えてきました。

今回の事例で食事で摂りきれない栄養はアルジネードのような栄養サポート商品を積極的に活用していく事が必要だと実感しました。そして、看護師は患者に一番近い存在として、毎日のケアの中で検査値に出ない患者の皮膚や食事量の変化、また会話を通じて栄養不良患者を見つけ出すことによって栄養管理に参加することが大切だと思いました。まだまだ知識不足ですが、NST・褥瘡委員会で色々な事を吸収し日々の看護につなげられたらと思います。

*NST介入の指示はどの職種からも出せるようになっていきます。栄養状態が心配だなと思う患者さんがおられたらドシドシオーダーして下さい。（栄養科）

6月に実施された

NST専門療法士研修を振り返って

大阪暁明館病院・西淀病院・新須磨病院・舞子台病院・真星病院の11名の方が、6/14～25 Ns・薬剤師・管理栄養士の方が受講されました。

毎日、4時間の講義後、提出していただいたレポートには、講義内容がびっしりで研修終了後はそのままテキストに出来るほど！本当にみなさん熱心に聞かれていました。

「NSTとは？」という基礎的な事から、「経腸栄養」「静脈栄養」「感染対策」「当院の嚥下食について」などそれぞれの専門知識を活かした講義や、言語聴覚士・歯科スタッフ・理学療法士による実技をとり入れた講義。NSTラウンド・スキンラウンドでは、ラウンドの現状と問題点、課題なども話し合いました。また、ランチミーティングでは、それぞれの院所の情報交換もでき大変有意義なものとなりました。すでに、NSTを立ち上げ、5年以上がたち電子カルテを導入しNSTが浸透している病院、NST担当医師が4名おられ、毎日別の診療科で回診が行われている病院、管理栄養士が主流となり、栄養管理をすべて引き受け、月100件以上栄養指導を実践されている病院、看護師・薬剤師・管理栄養士が中心となり、院内への啓もう活動をすすめている病院など、それぞれの特色があり学ぶことが多い充実した研修になりました。当院オリジナルグッズをはじめ、情報共有、情報交換が出来るようメーリングリストを作成し今後も交流を深めていきたいと思っています。

ご協力いただいた職場の皆さま、
本当にありがとうございました。

栄養科 詫間

～お詫び～

2ヶ月に1回の発行予定が、思いのほか手間取ってしまい、半年もあいてしまいました。軌道に乗るまでもう少し努力と工夫がいりそうですが、頑張りますので応援よろしくお願いいたします。

第12回 日本褥瘡学会での発表演題紹介

*石川副院長

“褥瘡ポケットに対するゴム輪結紮療法、
より簡便な「穿刺法」”
一般演題として、石川先生考案のシートン法を動画で紹介しました。フロアからは、「メリットは侵襲が少ないということでしょうか」「一方向だけでもドレナージは十分ですか？」など、非常に関心が高く、たくさん質問がありました。

*光原栄養士

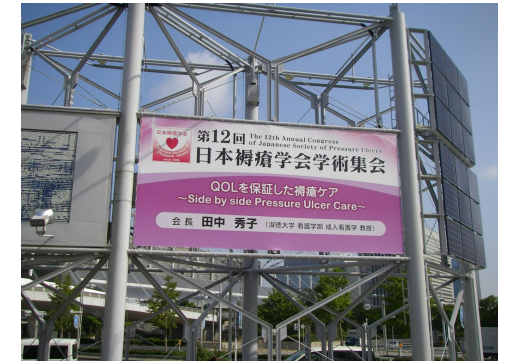
「褥瘡保有患者に管理栄養士のできること」

残念ながら光原さんは発表できませんでしたが、石川先生に代理で発表していただきました。石川先生が、管理栄養士の活躍を高く評価しているオーラ全開でしたので、“光原さんは、チームの中で大切にされて羨ましいですね”とコメントしていただきました。

*森本看護師

「中堅看護師を対象とした「褥瘡ケア」学習会による教育効果について」

09年度に実施した中堅看護師対象の「褥瘡ケア」研修会の受講状況や、その後現場で展開された実践について報告しました。全体的には、皮膚排泄ケア認定看護師が、頑張っている報告していましたが、当院のように認定看護師がいなくても褥瘡対策委員会ががんばっているところも多く励まされました。



お知らせ

現在褥瘡対策委員会では、体交クッションの選定を行っています。デモクッションを各病棟に配布しますので、使う側としてのご意見よろしくお願いいたします。

♪選択ポイント

- ・ 管理のしやすさ（衛生面・保存場所の確保など）
- ・ 使いやすさ（看護する側も患者側も）
- ・ コスト

褥瘡対策委員会では、スタンダード以上の看護・環境作りを現場と共に創っていくことを目指しています。

